

大学の世界展開力強化事業（平成27年度選定）中間評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	L-4
事 業 名	チリ・ブラジルとの連携による理工フロンティア人材の育成

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p> 本事業は、東京大学の理学系研究科とチリ大学、チリカトリカ大学及び工学系研究科・新領域創成科学研究科とサンパウロ大学、リオデジャネイロ連邦大学との共同研究、学術交流の実績を基盤として、平成28年度にブラジルのカンピナス大学、サンタカタリーナ連邦大学、ペルナンブコ連邦大学を追加した上で、自然科学の未踏領域への挑戦や上空からの探査技術開発、海洋資源開発という3プログラムを実施することにより、世界トップレベルの共同研究の推進と相手大学との学生交流を通じて、国際的な視野を持ち、科学・技術の最先端で活躍できる若手人材を育成することを目的としている。 </p> <p> 事業展開は概ね順調に推移しており、東京大学及び2か国の各相手大学の学生に多様な形態で先端的研究に関わる機会を提供し、我が国の科学技術水準の高さと南米の自然環境の豊かさという条件の下、それぞれのアカデミックな強みを活かした国際連携モデルとしての価値が認められる。学生交流においてもPBL（Project Based Learning）やインターンシップなど、学生の実践的学習機会が設けられているとともに、派遣・受入れ双方の学生へのサポート体制が確立されている。このほか、共通の授業運営が可能となる教員間の連携体制が確立されており、遠隔講義では日本人学生と相手大学の学生が現地から多数参加し単位取得に至っている。また、相手大学において東京大学の大学院の集中講義を実施し、参加した外国人学生が単位取得するなど、様々な方法を用いつつ大学の国際化貢献に努めている点も評価できる。引き続き、優れた学術的成果とともに先端科学を担う人材育成の輩出が期待される。 </p> <p> 一方で、派遣、受入学生の人数については、事業計画に基づく目標値に達していない。今後は、学生への更なる情報提供、文化系や教養教育系を含むプログラムの全学的な検討と国際化の努力による参加学生の確保が望まれる。 </p> <p> 最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け、積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。 </p>